

# 新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

## 第三十話

### 「新冠のふるさとの木」地域の歴史と自然

(要約文)

新冠町郷土資料館の取り組みのひとつに、「ふるさとの木」があります。新冠の各地に昔から生きている老木に案内看板を掲げ、地域の歴史と木の関わりを知っていただくものです。

今回は、主な「ふるさとの木」についていくつか紹介します。

#### ○クロビイタヤ(中央町)

カエデ科の落葉高木。世界的な植物学の権威であった札幌農学校(後の北海道大学)の宮部金吾博士は、昭和17年6月の植物調査の折に新冠御料牧場用地内でこの木を発見しました。その後、新種として学会に登録され、付近のアイヌの人達が「クロビイタヤ」と呼んでいたことから、この名が付けられたといわれています。

#### ○カシワ(字緑丘)

ブナ科の落葉高木。餅を包むのにも使われる葉は、冬になっても枯葉を落とさないのによく目立ちます。緑丘は昔、ウンネツプと呼ばれていましたが、御料牧場が解放されて、多くの人々が入植し開拓が行われた所です。当時、このような大きなカシワの木が鬱蒼としていたので、その深い根を

爆弾を使って掘り起こす「伐根」がさかんに行われていたようです。現在残っている緑丘のカシワの木は、伐根されないでそのまま残されたものです。

#### ○ミスナラ(字美宇)

ブナ科の落葉高木。ドングリの木として知られています。明治時代の美宇地区は、御料牧場の放牧地の一部でしたが、熊の出没が多く、放牧地の被害があつたことから、明治後期に開墾の鉞がおろされ、新冠町内においても早くから開拓が行われた所です。この木は、昔から美宇に生きている大木で、幾多の自然災害を乗り越えて現在に至っています。

#### ○ハルニレ(字明和)

ニレ科の落葉高木。「アカダモ」の別名でも知られています。明和地区は、戦後の御料牧場解放に伴って開拓者が入植した所で、やがて明和小学校が開校しました。この木は、開拓期の様相を残すとともに、学校の開校を記念して残されたものです。その他にも「ふるさとの木」はたくさんあります。ぜひ看板が掲げられている木を目にして、歴史と自然の息吹を感じてみてください。



明和の「ふるさとの木 ハルニレ」

## 「冬道での交通事故防止」

- 天候・路面状況に応じた運転を
- スピードダウンと慎重な運転を
- 「急」のつく運転操作は危険
- シートベルトの全席着用

静内警察署

火災・救急出動状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
11月	0件(0件)	24件(28件)	
2年1~11月	2件(4件)	250件(304件)	
交通事故発生状況 ( ) かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
11月	1件(0件)	0人(0人)	1人(0人)
2年1~11月	3件(7件)	0人(0人)	3人(9人)

## 人のうごき

(令和2年11月末現在)

人口	5,389人	(前月比 - 12人)
男	2,642人	(前月比 - 4人)
女	2,747人	(前月比 - 8人)
世帯	2,739世帯	(前月比 - 8世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

